

謹賀新年 本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、今年は、十月三十日から十一月三日までの五日間、当山としては三十三年振りとなる、五重相伝会の開筵（かいえん）という、大きな行事を予定しています。

五重をお受けいただく方は、五日間毎日、朝早くから夕方まで、当山西光寺において、修行をして頂き、所定の過程を経た上で、念佛者の証として、戒名と誓号を記した五重相伝の「伝卷」をお授けいたします。

受者の皆様には時間を工面して頂き、五日間、お寺に通い詰めています。

西光寺第二十九世 原 章人

西光寺時報

めで頂きますが、実りのある五日間になる事は間違いないと思

います。仏教の教え、浄土宗の教えを正しく学び、自らが修行

をすることにより、心身ともに鍛練していただければ幸いです。

さて、当山での五重開筵に先立ち、昨年十月三十日～十一月三日にかけて開筵された、京都市寺町の阿弥陀寺様の五重相伝会に、小職も参加させて頂きました。三十人程の受者の方々と一緒に、礼拝・念佛に五日間励み、勸誡（お説教）を聴き、信仰心を醸成してゆきました。阿弥陀寺様では十年に一度の周期で五重を開筵されていますが、

で

豊かな生活はどうでしようか。お釈迦様や法然上人が在世の時代と同様、人は、悩み、不安を抱えながら毎日を過ごしています。小職自身を省みても、日々、多くの罪業を積み重ねての生活です。

しかしながら、心

豊かな生活はどうでしようか。お釈迦

様や法然上人が在

世の時代と同様、人

は、悩み、不安を抱

えながら毎日を過ごしています。

小職自身を省みても、日々、多

くの罪業を積み重ねての生活で

は、悩み、不安を抱

えながら毎日を過ごしています。

西光寺時報 第33号

発行 不斷山 西光寺

〒563-0050 池田市新町一番一號
電話 072(751)2206
FAX 072(751)2406
https://akiling.wixsite.com/mysite

QRコード

豊かな生活はどうでしようか。お釈迦様や法然上人が在世の時代と同様、人は、悩み、不安を抱えながら毎日を過ごしています。

豊かな生活はどうでしようか。お釈迦

様や法然上人が在世の時代と同様、人は、悩み、不安を抱

えながら毎日を過ごしています。

豊かな生活はどうでしようか。お釈迦

紙上法話

「回向」の意味

仏事において、私達はよく、「回向（えいこう）」という言葉を用います。

意味するところは漢字そのままや亡くなられた方のために、『諸々の功德を、ご先祖さまへ回し向けて、ご供養する』ということです。

浄土宗の場合は、「南無阿弥陀仏」のお念仏を、亡き方に回し向けるという形になりますが、お念仏は、先ずは自分自身の為に称えるのが根本です。南無阿弥陀仏とお念仏を称える私自身が、臨終の夕べにおいて、阿弥陀様をはじめ、多くの先立つた方々にお迎え（来迎）いただき、仏様の国へと往生できますように。また、この世においては、諸々の仏様に³お見守りいただき

ます。その自身のための行となります。その自身のための申した念仏の功德を、先立たれたご先祖様へ、「回し向け」させていただくのです。⁴安達俊英上人は、解り易く、「プレゼントする」と、私達はこの世に命をいただいてから、様々な通過儀礼において、家族をはじめ、たくさんの方々から、その都度、「お祝い」「プレゼント」をいただき、成長を重ねます。そして私達が成長を重ね、親・祖父母の年齢に近づくと、今度は、子や孫へと、お祝い、プレゼントする」と、間接的に、貰つたプレゼントの恩のお返しをする。このようない形で、ご恩返しが続いていると思いますが、先立たれた方々への直接なプレゼントは、「南無阿弥陀仏」のお念仏の回向となるのです。

ちなみに、浄土三部經典中には説かれていませんが、いくつかのお經で、「七分獲一（しちぶぎやくいつ）」ということが説かれています。

「追善供養、追善回向の功德を七とすると、その七分の一がご先祖様に及び、残りの七分の六が供養した自身（施主）に及ぶ。」

自身の為の回向・供養をした場合は、どうなるでしょうか。これは、「七分全得（しちぶぜんとく）」と、いう仏教用語がありますが、七分全て、自身の功德になると、いうことなのです。亡くなつた後は、追善供養に比べて、七倍の功德となるので、日本では、古くから天皇家や貴族が、逆修と言つて、生前中に、自らのためには法要や説法等を修して、功德を積まれたという記録が残されています。

法然上人も当時の官僚、中原師秀に請われ、逆修の導師を務め、『逆修説法』という講義録が残されています。

今回、三十三年振りとなる五重相伝会は、受者の皆様にとつては滅多にない、逆修の機会です。極楽往生してからではなく、存命中に、自身のために、お念佛に励み、七分全得の功德を積んで頂きたいのです。

²浄土三部經典（無量寿經、觀無量壽經、阿彌陀經）に、それぞれ阿彌陀仏、諸菩薩等の来迎が説かれています。

³阿彌陀經において、諸仏の「護念」

が説かれている。

⁴浄土宗圓通寺住職。元佛教大学准教授。知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員。

小職が法事等において、檀信徒の皆様と一緒に、亡き方の回向をさせて頂く際は、極力、お經本を持参させて頂いています。また、本堂で回向する際は、木魚を叩いてご一緒に念仏を称えるようにしています。これは、お念仏の回向は、やはりご自身が、ご自身が親しい方へと、直接プレゼントして頂きたいと、いう思いがあるからなのです。

自身の為の回向・供養をした場合は、どうなるでしょうか。これは、「七分全得（しちぶぜんとく）」と、いう仏教用語がありますが、七分全て、自身の功德になると、いうことなのです。亡くなつた後は、追善供養に比べて、七倍の功德となるので、日本では、古くから天皇家や貴族が、逆修と言つて、生前中に、自らのためには法要や説法等を修して、功德を積まれたという記録が残されています。

法然上人も当時の官僚、中原師秀に請われ、逆修の導師を務め、『逆修説法』という講義録が残されています。

今回、三十三年振りとなる五重相伝会は、受者の皆様にとつては滅多にない、逆修の機会です。極楽往生してからではなく、存命中に、自身のために、お念佛に励み、七分全得の功德を積んで頂きたいのです。

また、亡き方のためには、「贈五重」「常回向」「日別回向」といった、追善回向が、五重相伝会では準備されています。これも、五重を開筵しなければでき

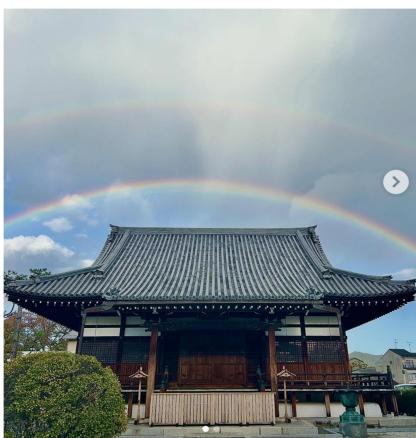
ない供養ですし、何よりも、大勢の受者の皆さんと共に、お念佛をお称えし、その功德を亡き方へと、回し向け、プレゼントをさせて頂きます。例えば受者が五十人集まれば、五十人皆で五日間行う、礼拝・念佛の功德が、ご先祖様へと回し向けされる訳ですが、これだけの大人數で回向できるのも、当山では五重相伝会以外にはございません。

「父母の恩は、山よりも高く、海よりも深い。この恩徳に報いることは到底できないが、せめてその万分の一だけでもと、力の限り努めることを孝行という。」

これは、米沢藩主上杉鷹山が残された格言ですが、五重を受ける方も、そうでない方も、日々、ご先祖様への感謝の念をもつて、念佛回向に励み、ほんの少しでも、命ある限り、南無阿弥陀仏の回向、プレゼントにお励みいただけることを願い、紙上法話を締め括ります。

南無阿弥陀仏 合掌

◆余録◆



三十日から十一月三日までの五日間、寺庭（家内）の生寺である京都寺町の阿弥陀寺様の五重相伝のお手伝いに行つて参りました。受者の方々が五日間、一生懸命に、勧説を聞き、礼拝・念佛の修行に励みました。最終日の正伝法（浄土宗の教えを正しく伝える儀式）を終え、受者の方々と共に祝膳を頂き、解散となりましたが、片付けがひと段落つき、池田へ帰ろうとした時、ふと空を見上げると、阿弥陀寺様の本堂を護念するように、虹が現れています。自然現象（ブロッケン現象）と片付けてしまえば、それで話は終わっていますが、偶然過ぎて驚きました。阿弥陀寺様の御本尊様が、受者の方々の五重成滿をお慶びになり、御威光が倍増された因縁なのかも知れないや、そうに違いないと思えるような摩訶不思議な光景でした。

西光寺の五重相伝会でも、このようないい奇縁が現れるのか、秘かに期待しています。

後も、五百年続く西光寺の歴史を、次世代へと継承してゆくため、住職として責務を果たしてゆきたい所存です。

なお、支出における通信費や会議費、接遇費等は、正確な金額を把握しきれないため、計上していません。

令和五年六月に本堂修理奉告式を勤修して以来、はや一年半が過ぎました。実は一部の工事が未完成ではあるのですが、今回回の修理に関わる会計報告を、集計できた範囲でさせて頂きます。

瓦のご寄付やお祝い金等をはじめ、色々な形で、多くの皆さまのご協力を頂きました。改めまして、御礼申し上げます。今後も、西光寺の歴史を、次世代へと継承してゆくため、住職として責務を果たしてゆきたい所存です。

令和の本堂大改修会計報告

〈収入の部〉

勧募金（祝金等含む）	¥16,830,000
檀信徒会積立金繰入	¥10,501,641
不断会積立金繰入	¥3,000,000
婦人会積立金繰入	¥2,000,000
晋山式余剰金繰入	¥4,098,007
一般会計積立金繰入	¥147,576,789
収入合計	¥184,006,437

〈支出の部〉

本堂改修	¥149,600,000
同追加工事	¥16,923,687
仏像仏具修繕	¥7,576,600
書院庫裏工事	¥8,279,750
記念品作成	¥1,626,400
支出合計	¥184,006,437

行事報告

盆施餓鬼供養

令和7年8月3日、

16、17日

大勢の方々にお参り頂き、「お盆」の原点である分かち合いの供養をいたしました。16日が土曜日であったため、午前中大変混雑し、参拝の方々には待ち時間が随分と長くなってしまった。今年は16日は日曜日にあたります。混雑緩和を図るべく善処したい所存ですが、夕方開催の予約制の施餓鬼供養へのお参りも、お勧めいたします。

なお、今年もお祀りの笹を、止々呂美の檀家総代様にご寄付頂いております。餓鬼壇への供物も、檀信徒の皆様から頂いたお米や野菜をお供えさせて頂きました。改めて、御礼申し上げます。

止々呂美地区から頂いた棚幡（七夕）の笹も、短冊でいっぱいになりました。

合祀墓・納骨壇祠堂廻向
令和7年8月17日
9月23日

盆施餓鬼最終日と秋彼岸の中日に、靈名簿に基づき御回向をさせて頂きました。今年の上半期は、元旦と春彼岸中日での回向を予定しています。ご一緒にお焼香・供養をご希望の方は事前に西光寺までご連絡をお願いいたします。正確な日時をお伝えいたします。

地蔵盆・淨焚会

8月23日～25日

今年も地元の地蔵講主催で、西光寺境内で地蔵盆を開催しました。二十三日早朝の準備からはじまり、二十四日の午後三時からは恒例の大念珠繰りが開催され、二十五日の早朝、皆で後片付けをし、その年の西光寺の夏の行事も終わりを告げました。

なお、西光寺が管理する栄根寺廃寺跡（川西市花屋敷）の地蔵尊においては、今年も二十三日に住職が赴き供養させて頂きました。



地蔵盆の大念珠繰りの様子。茶道教室の子供さん達にも参加して頂いています。この後、仏様のお下がりであるお菓子を、皆で分け合いました。※ともいき夕陽の集い併修事業

お十夜法要並びに婦人会総会

10月10日

大阪教区布教師会々長 森俊英上人（堺市 正明寺住職）をお招きし、法話を一席、頂きました。

法話は、法然上人御法語「孝養父母（きょうようぶも）」を讃題に、親から受けたご恩の話からはじまり、「回向とは？」、「極楽とは？」等、用語の丁寧な説明もあり、お参り頂いた皆さまも、聴き易くて、理解し易い内容であつたのではないでしようか。

法話の後、休憩をはさみ、お十夜法要を勤修いたしました。法要では毎年、開山忌、詠唱奉納、参列者の結縁回向をお勤めさせていただいておりますが、今年は終戦八十年の年にあたるため、加えて、戦没者の供養と平和誓願法要も併修させて頂きました。



令和七年のお十夜法要の様子。結縁以降にて皆様にお焼香をしていただいているいます。

法話をさせて頂いてはおりますが、じつくり聴いて頂ける機会は、年二回のこの機会しかありません。先にも述べましたが、「逆修（生前に自らの功徳を積む）」の絶好の機会でもござりますので、檀信徒の皆様には奮つてご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

春彼岸

合祀墓・納骨壇祠堂廻向

令和7年3月20日

当山合祀墓並びに納骨壇にお納め頂いているお骨の供養を、靈名簿に基づき行います。例年夕方5時頃から本堂にて行つておりますが、ご一緒に参り、ご焼香頂ける方は、正確な開始時間を当山までお問い合わせの上、お参りください。

御忌会並びに不斷会総会

令和7年4月12日

午後2時より不斷会総会、その後、本山布教師様による法話を頂戴いたします。休憩をはさみ午後3時過ぎより、御忌会、結縁回向を勤修いたします。

今回の布教師様は、石川県金沢市、大円寺住職の高野英修上人をお招きしております。

高野上人は、佛教大学の学生時代から、家内の生寺、京寺町阿弥陀寺様で下宿し、卒業後も阿弥陀寺様に随身として長年、お勤めされておりました。現在

行 事 案 内

は、石川県のお寺の住職ですが、奈良県のお寺の兼務住職もされており、京都・奈良へは頻繁に訪れておられ、昨年、阿弥陀寺様の五重相伝会でご一緒させて頂いた際、お願ひしました。法話は話し手によって、伝え方、のり口も随分変わります。今回、高野上人の法話は、小職も初拝聴となりますので、とても楽しみにしています。多くの皆様が高野上人の法話を聴き、『逆修』の功徳をお積みいただければ幸いです。

奈良県のお寺の兼務住職もされており、京都・奈良へは頻繁に訪れておられ、昨年、阿弥陀寺

令和八年 年回表

一周忌	令和七年	往生
三回忌	令和六年	往生
七回忌	令和二年	往生
十三回忌	平成二十六年	往生
十七回忌	平成二十二年	往生
二十五回忌	平成十四年	往生
三十三回忌	平成六年	往生
五十回忌	昭和五十二年	往生

※法事のお申し込みは、先着順で受け付け致します。お早めにお申し込みください。

不斷山 西光寺

電話 〇〇七二（七五一）二二二〇六
ファクシミリ〇七二（七五一）二四〇六

令和八年 年間行事予定

一月一日	修正会・東山地区互礼会	毎月第3火曜日	7時
一月七日	止々呂美地区互礼会 総代会初寄	毎月25日	8月休講
三月二十日	春季彼岸会	毎月一回金曜日	15時
		吉水流詠唱講	13時30分
四月十二日	御忌会・不斷会総会 お盆参り（棚経）	毎週月曜日	18時30分
	七月上旬～八月下旬	毎週土曜日	13時30分
八月三日	止々呂美盆施餓鬼供養	第2・4水曜日	16時
八月十六、十七日	盆施餓鬼供養	こども茶道教室 (指導：中西東李先生)	（指導：裏々家結城宗宜先生）
八月二十三～二十五日	地藏盆・淨焚会	毎週火曜日	※大人も参加頂けます。
九月二十三日	秋季彼岸会	月2回月曜日	9時30分
十月上旬	十夜法要・婦人会総会	親子ヨガ教室 (指導：Rie Yoshimura先生)	
十月三十日～十一月三日	五重相伝会	毎週火曜日	10時
十一月中隨時	ヨガ教室（テラヨガ） (指導：Rie Yoshimura先生)	毎週金曜日	10時
七五三法要	毎週火曜日	毎週火曜日	13時00分
十二月三十一日	毎週火曜日	第2・4木曜日	13時30分
除夜の鐘	自彌術（健康体操） (指導：生田佐智子先生)	自己指圧Cafe (指導：村上宏子先生)	7時